

勝共連合元事務総長 安倍氏を支援 12年総裁選

旧統一教会と自民の関係が問われるなか、特に関係の深さが指摘されてきたのが自民安倍派（清和政策研究会）だ。安倍氏の首相再登板につながる2011年の総裁選を個人的に支援したという関連団体の元最高幹部が、清和研の源流である岸信介氏からつながる歴史が背景にあつたと証言した。

証言したのは1970年前後

に関連団体「国際勝共連合」の2代目事務総長を務めた阿部正寿氏（86）。教団創始者の文鮮明氏の指示で、教団の日本教会初代会長だった久保木修己氏と共に勝共連合の設立に携わった。その後も信者は続いているが、

12年当時は教団や関連団体の役職から外れていた。阿部氏は岸氏とも、つながりがあったという。阿部氏は岸氏と文氏が「日本でも反共活動をやらないといけない」と言葉を交わした会談にも立ち会ったといふ。

2010年2月に撮影した写真が残っている。阿部氏が関係するシンクタンクが企画した講演会に安倍氏を招いたときのものだ。「安倍氏の人柄や政治恩想に引かれた」と振り返る。

当時は民主党政権。リベラル勢力への反発があり、阿部氏は「民主党政権を倒すには、岸氏の血を引き継ぐ安倍氏しかいない」と考えた。

保守系の市議らと「民主党政権の打破」で考えが一致、12年の総裁選で野党だった安倍氏を

支援するグループの基盤作りを担った。教団関連で共に行動をしていた信者の小林幸司氏（62）がグループの運営に携わった。小林氏は「自分はあくまで裏方だった」とする。

フェイスブックで安倍氏を応援するページを作り、数百人規模のイベントを企画。活動を続けていくうちに様々な保守系の団体も仲間に加わった。

12年4月、安倍氏の姿は東京・高尾山にあった。第1次政権が終わってから、何度も登っているが、小林氏とも山頂に向かったという。安倍氏の健康状態をアピールするためグループで企画したものだ。

阿部氏は「私はまだ文氏と信仰心は持っている」と語りつつ、日本で高額な献金を求めてきたことなどへの反発があると説明した。文氏から「献金しないと日本は滅びる」や「日本人は罪深い人間だ」と言われてきたという。そうした主張に問題があると訴えたかったとして「年齢的に私はこの先、長くない、取材に応じない」とした」と語った。

12年の総裁選當時、小林氏は勝共連合の幹部に安倍氏に対する支援を求めたが、組織としては動かなかったという。小林氏は「教団側の幹部は安倍氏を『終わった人』と認識していたのかかもしれない」と感じた。しかし、首相に復帰すると、組織としての関係は深まつていった。